法華堂

常行堂同様、法華堂も瞑想のための道場です。歩行瞑想には、お堂の中心の仏像の周りを歩くための十分な空間が必要とされます。常行堂は歩行瞑想のために設けられ、より大きく作られています。それとは対象的に、法華堂は体を動かさずに瞑想を行う座禅の道場であり、必要とされる空間がさほど広くなく、比較的小さく建立されています。

僧侶たちは、一度も法華堂の外には出ず、九十日間連続して法華堂の中で瞑想を行ったようです。常行堂も法華堂も、それぞれ対照的な様式で建立されています。常行堂は四角の窓を特徴とする和様で作られているのに対し、法華堂はニンニクの形をした窓を特徴とする唐様で建立されています。それぞれ和様と唐様で作られた歩行瞑想と座禅の堂の組み合わせは、大変稀です。他に、京都近くの延暦寺のにない堂は、この常行堂と法華堂と形式的に同一です。